



# 関西経済レポート(5月号)

- ➡ 生産は横ばいから持ち直しの動きが見え始めている。
- ➡ 輸出は米国を中心に引き続き緩やかに回復。
- ➡ 消費者センチメントは高水準で推移している。
- ➡ センチメント改善を受け個人消費にも影響が表れつつある。  
住宅は引き続き好調。
- ➡ 補正予算の執行率が高まり、公共投資は拡大局面へ。
- ➡ 円安株高から景気回復に期待が高まるも、先行き不確実性が高い。  
アジア経済の回復がカギとなろう。

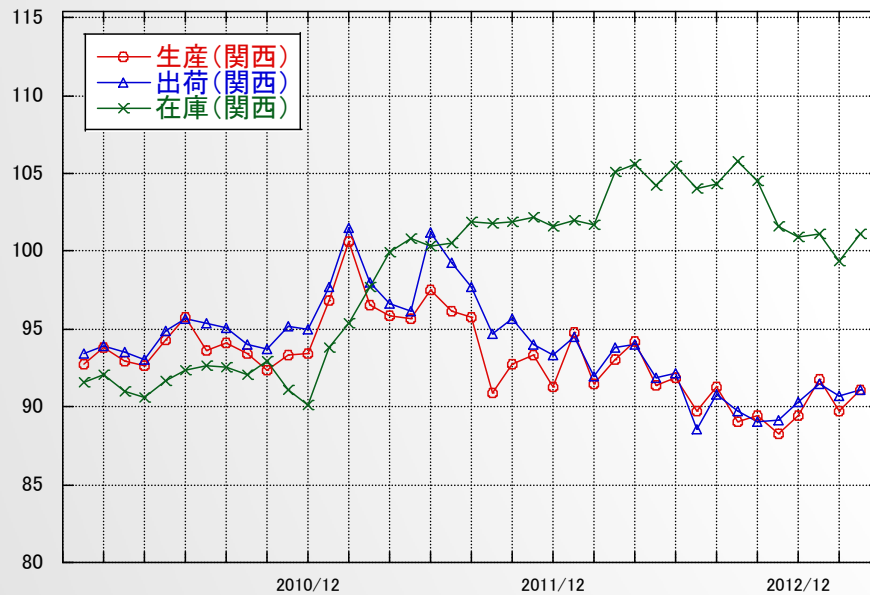
※「近畿」・「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

# ～生産～

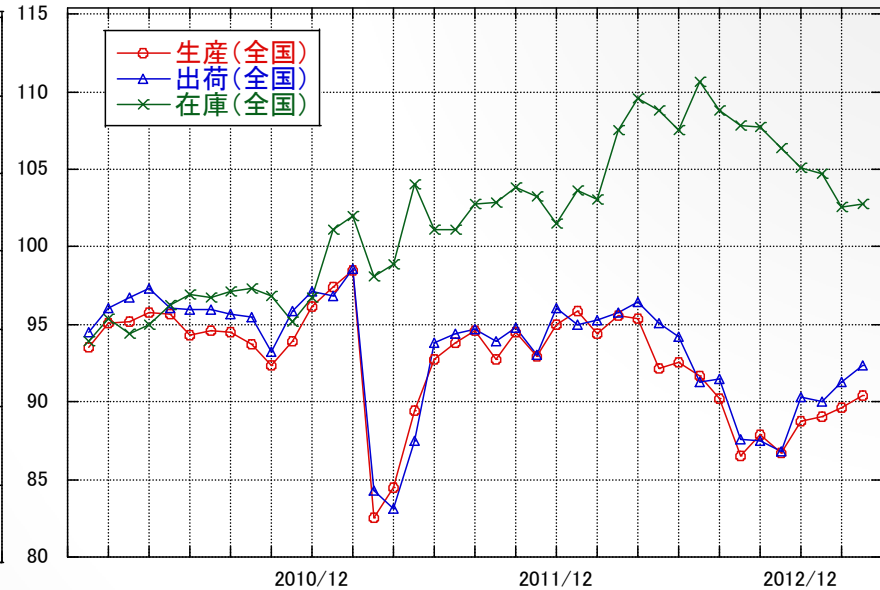
鉱工業指数の推移（近畿・2013年3月まで）、2005年=100



（データ出所：「近畿経済の動向」（平成25年5月13日公表分）、近畿経済産業局）

- 近畿における3月の鉱工業生産指数（確報値：季節調整済）を見ると、生産は91.0で前月比+1.4%、出荷は91.0で同+0.3%、在庫は100.6で同+1.2%といずれも2カ月ぶりの上昇。
- 業種別にみると、情報通信機械工業、電気機械工業、金属製品工業等が生産の上昇に寄与した。一方で、一般機械工業の生産水準は下落している。
- 2012年11月に底を打って以来、鉱工業生産指数は持ち直しの動きが続いている。しかし、一般機械工業に落ち込みが見られるなど、今後の動向が注視される。

鉱工業指数の推移（全国・2013年3月まで）、2005年=100

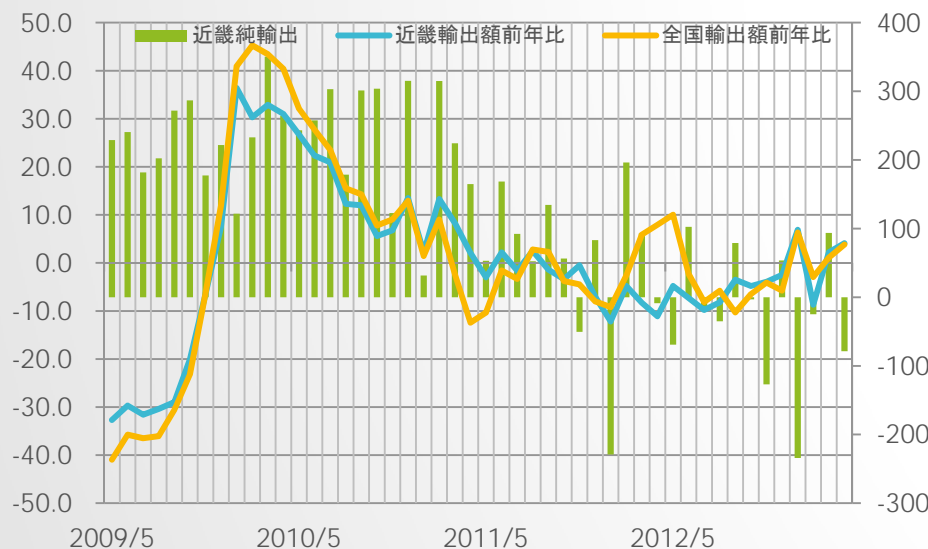


（データ出所：「鉱工業指数」（平成25年5月16日発表）、経済産業省）

- 全国における3月（確報値：季節調整済）の鉱工業生産指数は、90.4で前月比+0.9%と4カ月連続の上昇、出荷は92.4で同+1.2%と2カ月連続の上昇、在庫は102.8で同+0.2%と8カ月ぶりの上昇となった。
- 全国では、化学工業、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業、一般機械工業、鉄鋼業、金属製品工業等の生産指数が上昇した。一方で、輸送機械工業や精密機械工業が低下した。
- 在庫調整の動きも一段落しており、今後の生産動向は堅調となることが想定される。

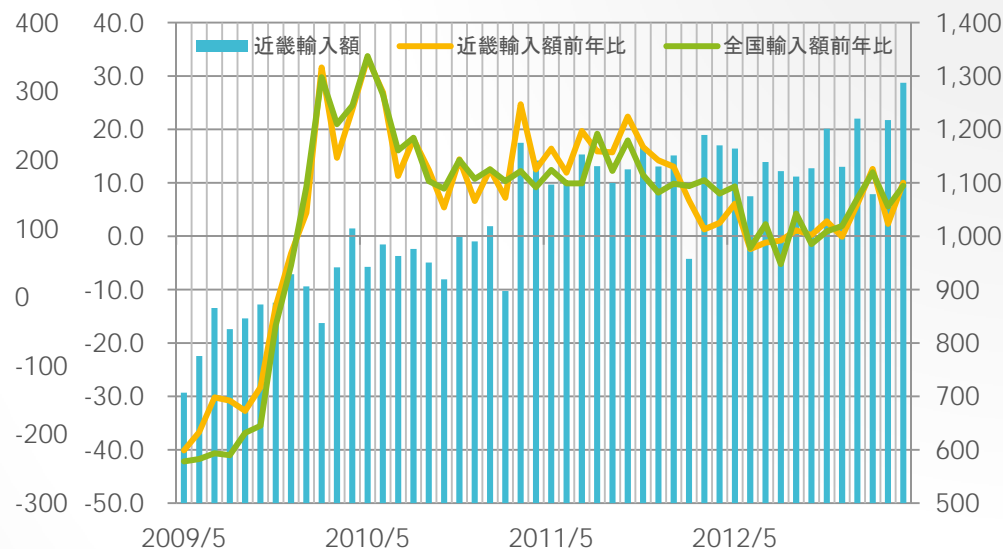
# ～輸出入～

輸出（右、10億円）・前年同月比（左、%）（2013年4月まで）



（データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」（平成25年4月分（速報値）、5月22日発表）、大阪税関調査統計課）

輸入（右、10億円）・前年同月比（左、%）（2013年4月まで）



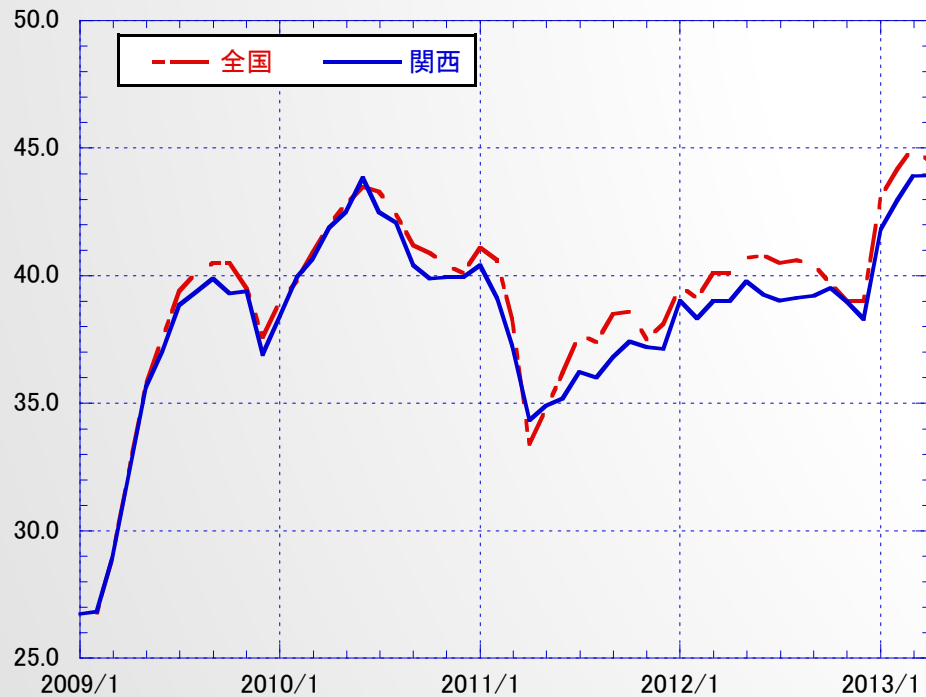
（データ出所：「財務省貿易統計」（平成25年4月分（速報値）、5月22日発表）、財務省）

- 近畿圏における4月の輸出額（速報値）は1兆2,089億円、前年同月比+4.1%と2カ月連続の増加。
- 半導体等電子部品、鉄鋼、原動機が増加。
- 全国の4月の輸出額（速報値）は5兆7,774億円、前年同月比+3.8%と2カ月連続の増加。
- 地域別では、アジア（前年同月比+4.3%）、中国（同+1.6%）、米国向け（同+6.3%）輸出は増加も、EU向け（同-5.5%）は減少。全国、近畿とも米国向け輸出の伸び率は高水準で推移も、EU向けの減少傾向が続いている。

- 近畿圏における4月の輸入額（速報値）は1兆2,874億円、前年同月比+10.0%と4カ月連続の増加。輸入は高水準で推移。
- 衣類及び同付属品、半導体等電子部品、天然ガス及び製造ガスが増加した。
- 全国の4月の輸入額（速報値）は6兆6,573億円、前年同月比+9.4%と6カ月連続の増加。

# ～消費者センチメント～

消費者態度指数(原数値、2013年4月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 4月の消費者態度指数(原数値：試験調査ベース)は43.9。前月差+0.4ポイントの改善。
- 内訳：暮らし向き40.8、収入の増え方40.2、雇用環境48.7、耐久消費財の買い時判断46.0。いずれも高い水準を維持。
- ※4月より訪問留置調査から郵送調査へと変更。

景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性、2013年4月まで)

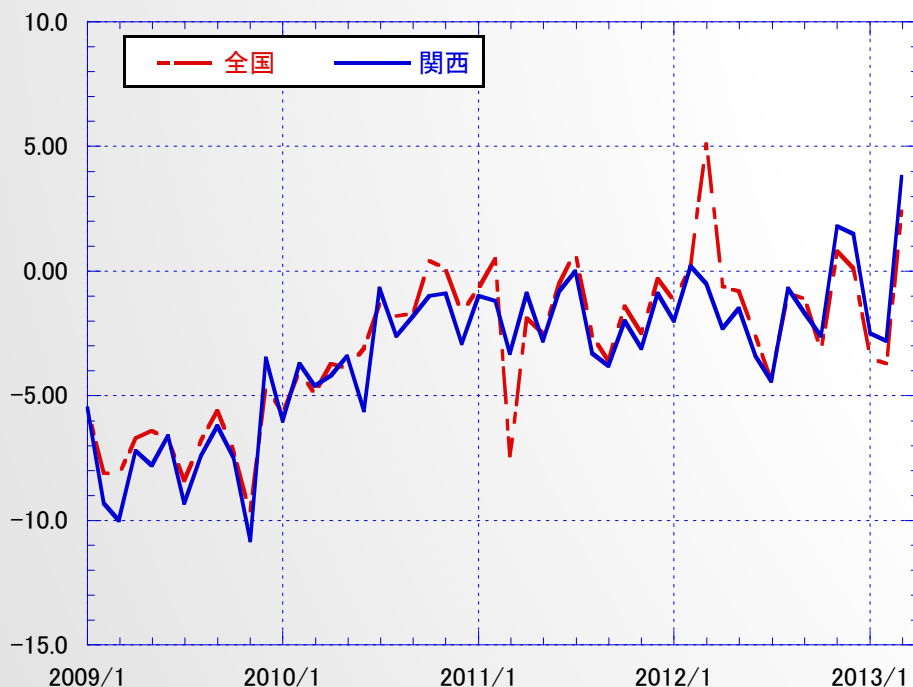


(出所) 内閣府

- 4月の現状判断DIは59.6、前月比-1.7ポイントと6カ月ぶりに悪化した。
- 株高から高額商品の売上げが好調だった一方で、円安から消費財価格の上昇によるマイナスの効果がみられる。
- 全国の現状判断DIも、同-0.8ポイントの56.5と6カ月ぶりに低下。
- いずれも6カ月ぶりの低下だが水準は高く、好調を維持。
- 関西の先行き判断DIは同-1.1ポイントの59.6。2カ月連続で低下。
- 円安による原材料価格の上昇から消費マインドの低下懸念が高まる。
- 全国の先行き判断DIは同+0.3ポイントの57.8と、2カ月ぶりに上昇。

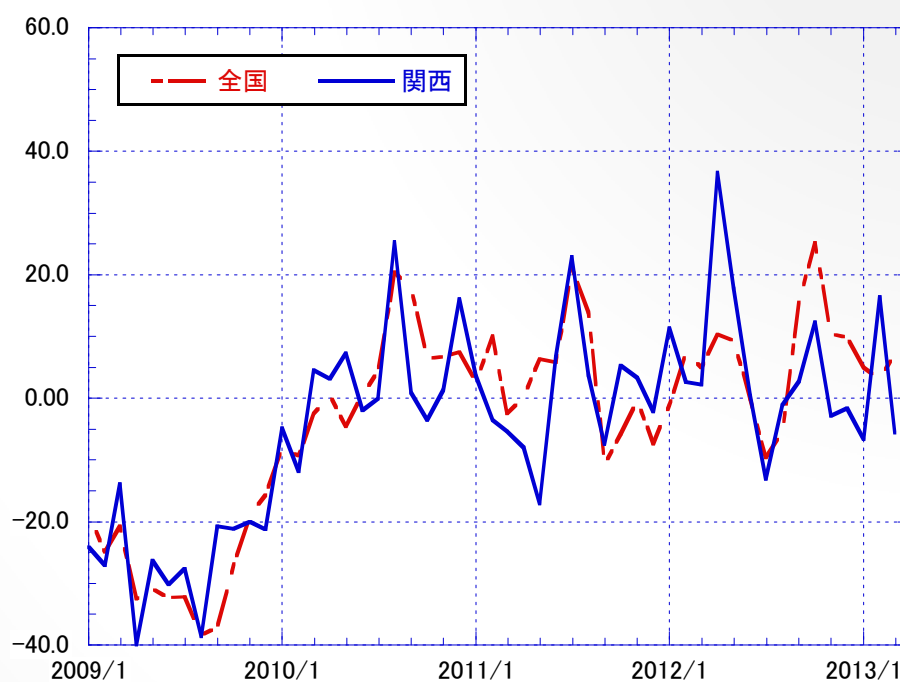
# ～個人消費・住宅～

大型小売店販売額（前年同月比：％、2013年3月まで）



（出所）近畿経済産業局

新設住宅着工(前年同月比：％、2013年3月まで)



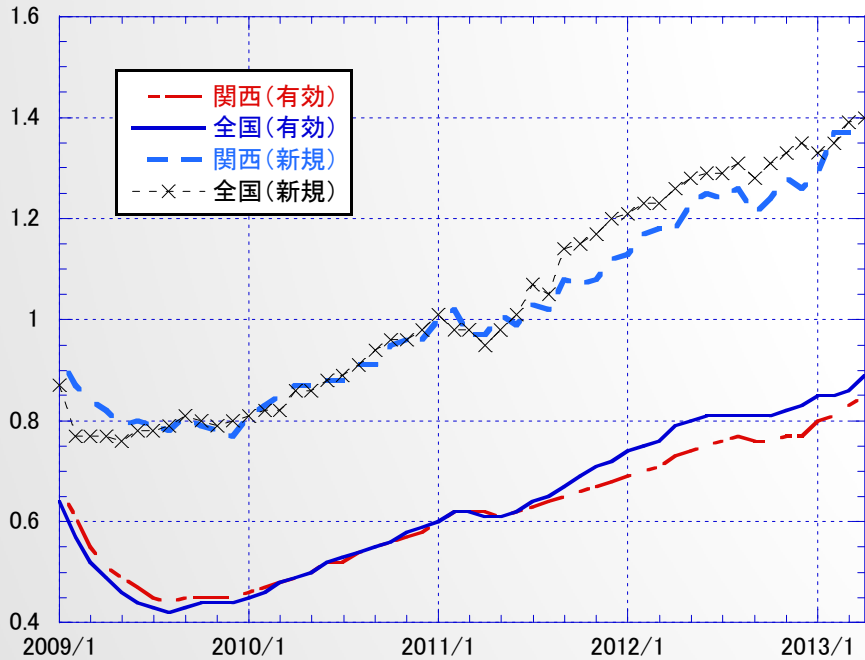
（出所）：国土交通省「住宅着工統計」

- 3月の大型小売店(百貨店＋スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比+3.8%と3カ月ぶりのプラス。
- 百貨店は同+6.8%と5カ月連続のプラス。一部店舗の増床・リニューアル効果があったことに加え、気温上昇等に伴い春物衣料が大きく伸びた(近畿経済産業局)。
- 全国の3月の大型小売店販売額(既存店ベース)は同+2.4%。3カ月連続ぶりのプラス。
- グランフロント大阪の開業をはじめとし、今後、関西の消費には期待が持てる。

- 関西の3月の新設住宅着工戸数は11,232戸。前年同月比-5.6%と2カ月ぶりに下落。
- 利用関係別にみると、持家は同+15.0%と上昇しているが、貸家は同-7.4%、分譲は同-17.8%と下落している。
- 全国の3月の新設住宅着工戸数は同+7.3%。7カ月連続で上昇している。
- 関西の4月のマンション契約率(出所：不動産経済研究所「マンション市場動向」)は79.8%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安とされる70%を14カ月連続で上回る。
- 消費増税による駆け込み需要が顕在化しつつある。

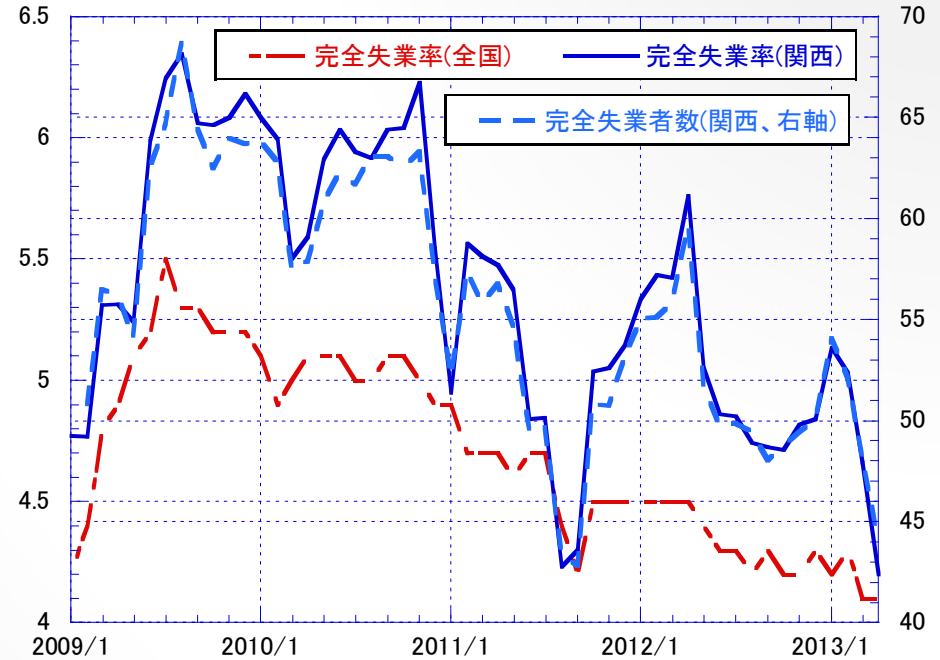
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2013年4月まで）



(出所) 厚生労働省

完全失業率の推移（季節調整値：％、2013年4月まで）



(出所) 総務省「労働調査」

地域別有効求人倍率2013年4月

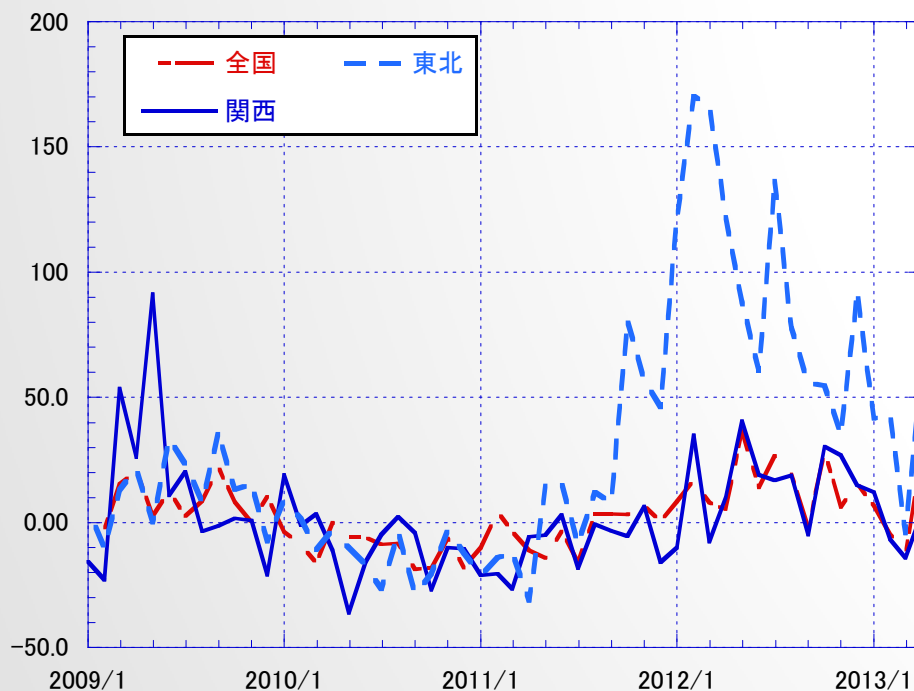
	全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
4月	0.89	0.68	1.00	0.88	0.83	0.99	1.07	0.85	0.99	0.94	0.73
3月	0.86	0.69	0.98	0.86	0.83	0.96	1.02	0.83	0.96	0.92	0.71

- 4月の近畿の有効求人倍率は0.85倍、前月から0.02ポイントの改善。
- 全国は0.89倍で、前月から0.03ポイントの小幅改善。
- 近畿と全国は、いずれも2008年8月リーマン・ショック前の水準(0.86と0.86)程度に回復。
- 地域別にみると、自動車の好調を受け東海が1.07倍と高水準。また建築など復興需要を背景に東北が1.00倍と高い。

- 4月の近畿の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は4.2%と前月から-0.5ポイント大幅に低下し、3カ月連続で改善。
- 4月の近畿の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は44万人。前月から4万人の減少。
- 4月の全国の完全失業率（季節調整値）は4.1%。前月の水準を維持。
- 近畿・全国ともに労働市場は緩やかに改善している。

# ～公共投資～

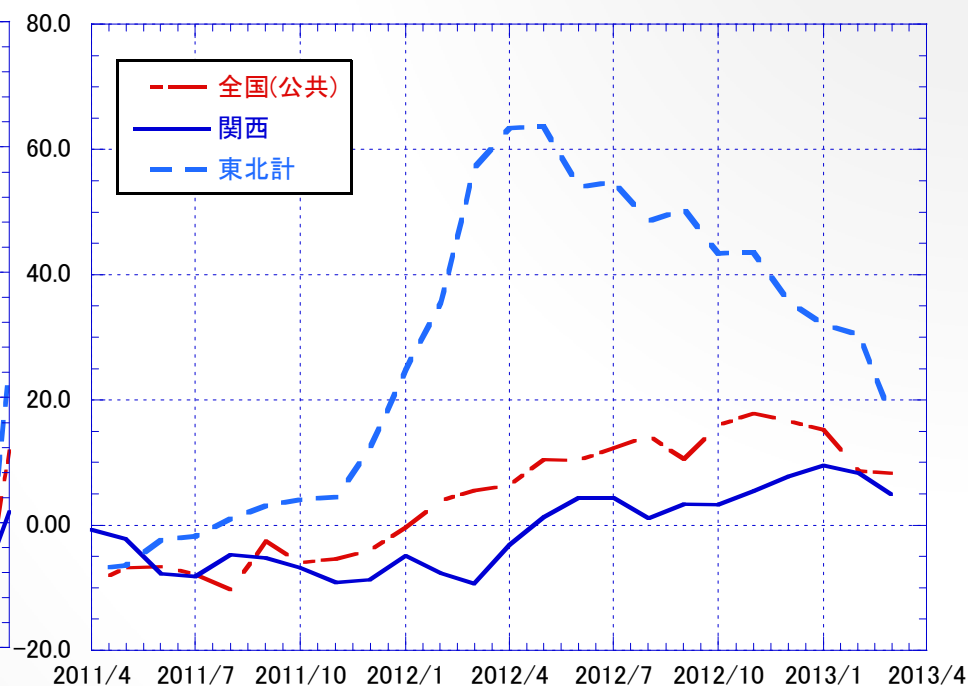
公共工事前払保証額(前年同月比：%、2013年4月まで)



出所：西日本建設業保証株式会社 他

- 4月の公共工事前払保証額は1,782億円、前年同月比+4.2%と2カ月ぶりのプラス。
- 全国は1兆5,991億円。前年同月比+28.6%と2カ月ぶりのプラス。
- 一方、東北は同+61.6%となった。2カ月ぶりのプラス。
- 季節調整値でも、4月の受注は前月比で増加。(関西：+52.5%、全国：+42.4%)
- 関西の公共工事は、4月に入り再び増加している。

建設工事(前年同月比：%、2013年3月まで)



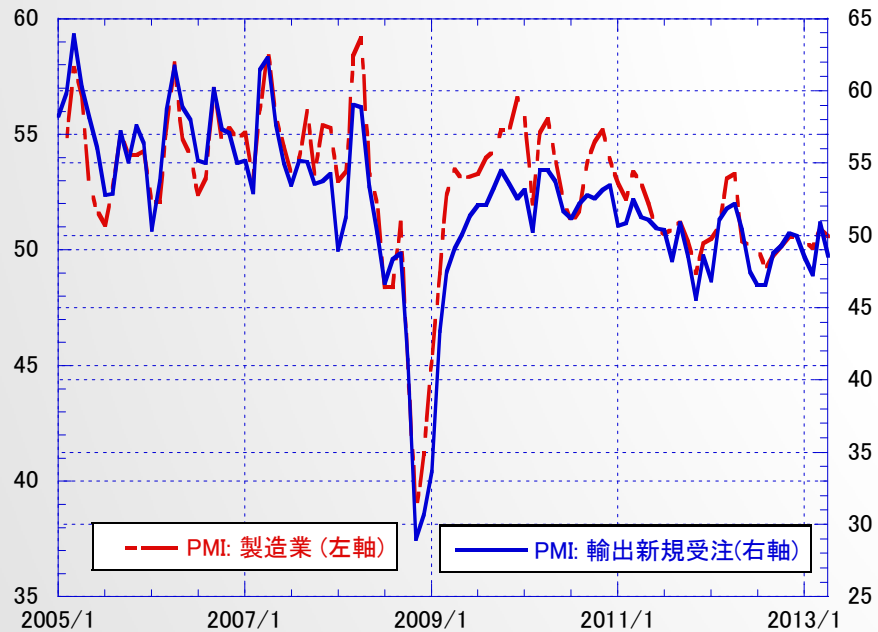
注：全国は公共。関西、東北は民間と公共の合計  
出所：国土交通省「建設総合統計」

- 3月の建設工事(民間と公共の合計)は5,474億円。前年同月比+5.0%と11カ月連続のプラス。
- 全国(公共工事)は1兆8,671億円。前年同月比+8.3%と14カ月連続のプラス。
- 一方、東北の建設工事(民間と公共の合計)は同+17.3%となった。20カ月連続のプラス。ただし上昇幅は縮小しつつある。



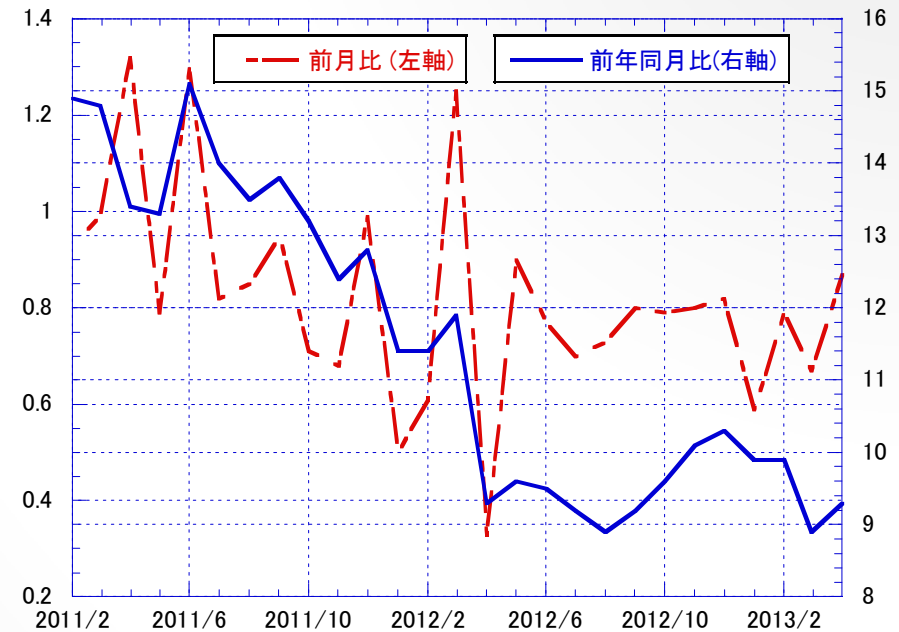
# ～中国経済動向①～

中国購買担当者景況指数(2013年4月まで)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

工業生産動向(2013年4月まで)



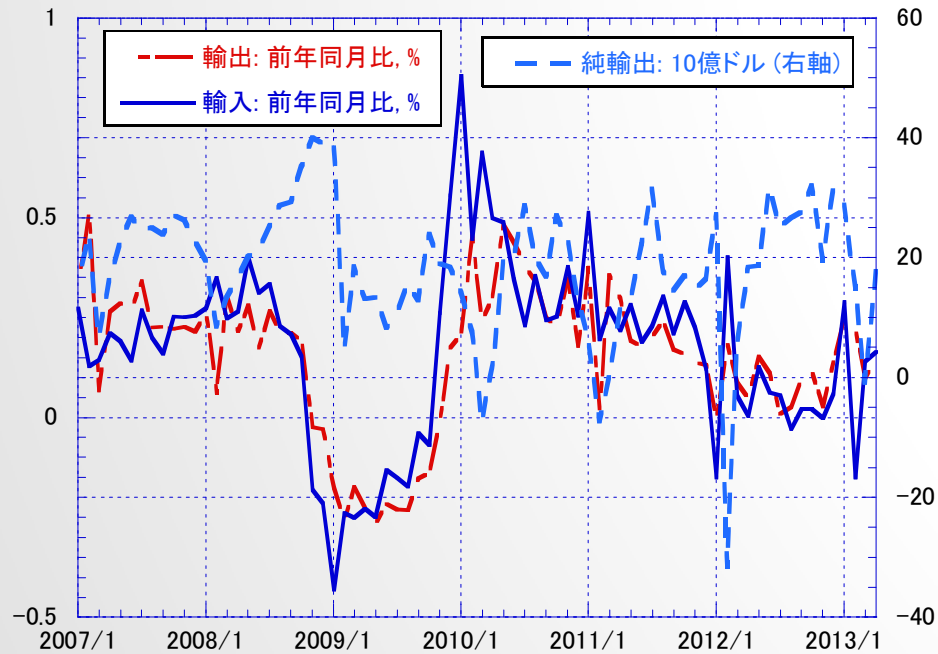
出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 4月の製造業PMI(購買担当者景況指数: 季節調整値)は50.6となり、前月から-0.3ポイントの低下。
- 生産指数と新規受注指数はそれぞれ52.6と51.7となり、先月の52.7と52.3よりやや低下したが、概ね回復傾向にある。
- 輸出新規受注は48.6と50を割り込み、輸出環境は良くない。

- 4月の工業生産は前月比+0.9%と3月より拡大した(3月: +0.7%)。
- 前年同月比では、4月は+9.3%となり、3月(+8.9%)より幾分回復したが、先行きは不透明である。

## ～中国経済動向②～

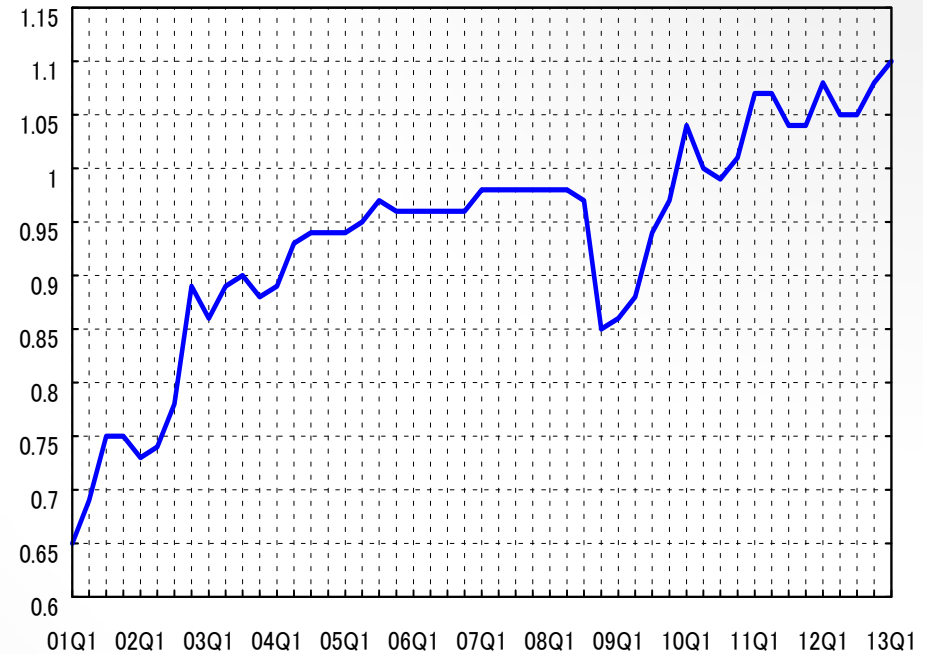
中国の輸入・輸出(2013年4月まで; 前年同月比)



出所：中国税関(「中国海関」)；CEICデータベース

- 中国の輸入・輸出額の増加率（前年同月比）は、2010年1-3月期頃をピークに減速。
- 4月には、輸出+14.6%、輸入+16.6%となり、いずれも前月より伸びが低下した。
- 輸出は概ね2桁の成長を続けているが、輸出新規受注PMIの現状より、更なる減速が懸念される。

求人求職倍率(2013年1-3月期まで)



出所：中国国家统计局；CEICデータベース

- 1-3月期の有効求人倍率は1.10になり、2001年以降の最高値となった。
- しかし、求人数と求職者数を見ると、求人数は前年同期比-2.9%、求職者数は同-4.3%といずれも減少した(84主要都市ベース)。
- そのため、労働者にとって労働市場の改善を反映しているが、企業の生産活動が回復しているとまでは言えない。